

第32期 中間報告書

平成19年7月1日から平成19年12月31日まで



Medical



Medical Device



Industrial Device



Your dreams. Woven together.

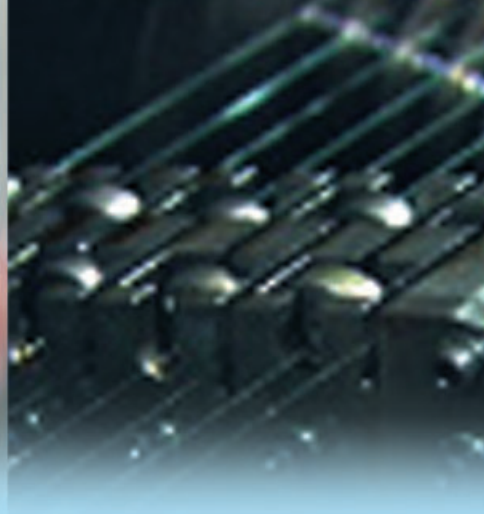
ASAHI INTECC



Medical



Medical Device



Industrial Device

目次

ごあいさつ ————— 2

連結財務ハイライト ————— 3

トピックス ————— 5

セグメント別営業の概況 ————— 7

財務諸表（連結） ————— 9

●中間連結貸借対照表 ●中間連結損益計算書

●中間連結株主資本等変動計算書

●中間連結キャッシュ・フロー計算書

財務諸表（単体）・株式の状況 ——— 11

●中間貸借対照表 ●中間損益計算書

●中間株主資本等変動計算書 ●株式の状況

会社の概要・株主メモ ————— 13



株主の皆様へ



株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、ここに当社グループ第32期中間連結会計期間（平成19年7月1日から平成19年12月31日まで）の営業の概況についてご報告申し上げます。

当社グループの関連する医療機器業界は、国内市場においては平成17年4月の改正薬事法施行のほか、平成14年より隔年にて医療機器償還価格引下げや診療報酬包括化など、国による医療費抑制施策の継続的な見直しが進んでおります。また世界市場におきましても、大手医療機器企業間のM&Aによる企業編成が進むなど、国内外共に事業環境は大きく変化しております。一方、当社グループの関連する産業機器業界においても、主要製造業の景況感の悪化など景気減速感が否めず、また原油価格とともにニッケルやステンレスなどの合金鉄の原材料価格が変わらず高値で推移するなど、業界全体は厳しい環境下にあります。

このような経営環境の中、当社グループは、『低侵襲治療製品の普及を日本から世界へ積極的に発信し、全世界の患者様のQOL（Quality of Life）を高めると同時に、全世界での「ASAHIブランド」の確立を図る』ことをテーマとして継続的に安定した成長を目指すとともに、各事業で成長戦略の加速化と経営体質の基盤強化に取り組んでおります。

その結果、当中間連結会計期間の売上高は、米ドルなどの為替動向の変化による悪影響があるものの全セグメントともに好調に推移し、60億86百万円（前年同期比10.1%増）になりました。

売上総利益は、主要原材料などの価格高騰に伴う原材料費の増加、タイパーツ高などの為替動向の変化に伴う製造経費の増加、世界レベルに準じた品質保証レベルに準拠す

るための量産体制の改善や新工場ASAHI INTECC HANOI CO.,LTD.の立上げに伴う諸経費の増加、新製品生産開始に伴う歩留まりの悪化、下期以降のアボット ラボラトリーズ社との取引減少を見越した減産に伴う利益率の低下など複合的な要因により売上原価が増加したことから、30億82百万円（同6.7%減）となりました。

営業利益は、予想以上の市場反響に伴う全世界展開の加速化に派生し、海外営業活動や薬事及び品質保証体制の強化を実施しており、人件費及び販促費を中心に販売費及び一般管理費が若干増加したことから、6億60百万円（同40.4%減）、経常利益は、6億53百万円（同44.3%減）、中間純利益は、2億40百万円（同61.2%減）となりました。

当社グループは、研究開発型企業として医療及び産業機器分野において、安全と信頼を基盤とする「Only One」技術や「Number One」製品を世界に発信し続けることにより、全てのお客様の「夢」を実現すると共に、広く社会に貢献していくことを企業理念としております。

当社グループの医療機器分野事業は、主に傷口が小さく痛みの少ない「低侵襲治療」の製品を開発・製造・販売しており、患者様の肉体的・精神的・経済的負担を軽減し、そして医療費抑制にも貢献できる大変意義のある事業であると考えております。

今後も、社会に貢献できる企業であり続けることで、社会からも市場からも評価される企業として、更なる成長を遂げたいと考えております。

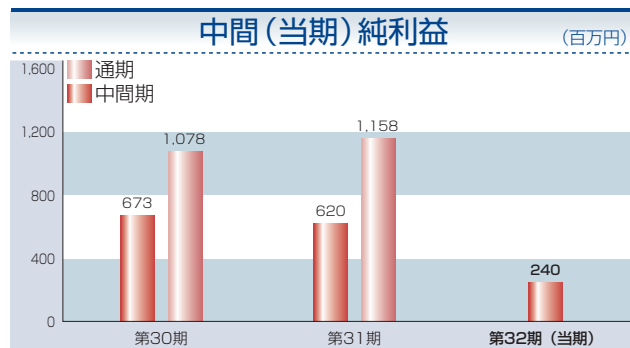
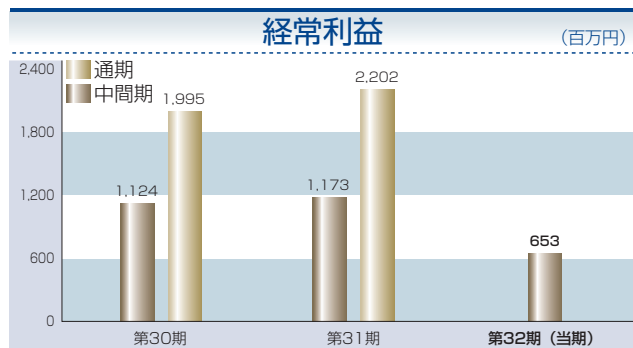
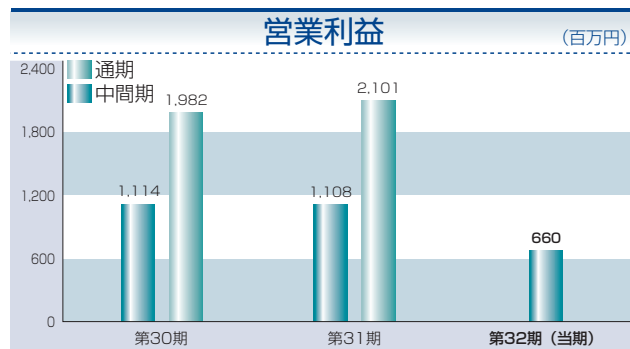
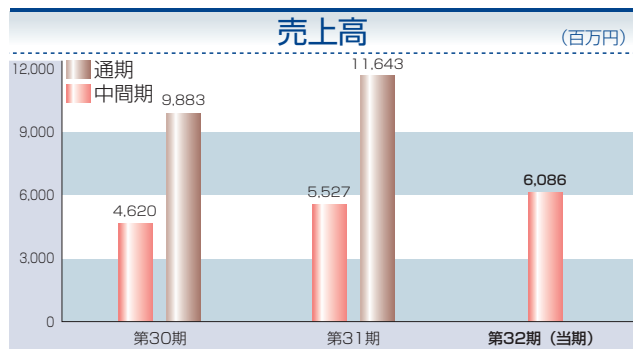
株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年3月

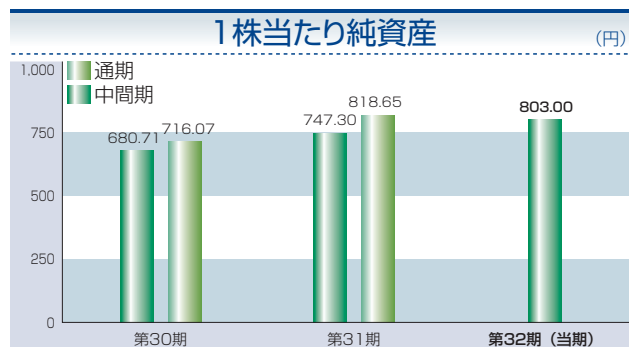
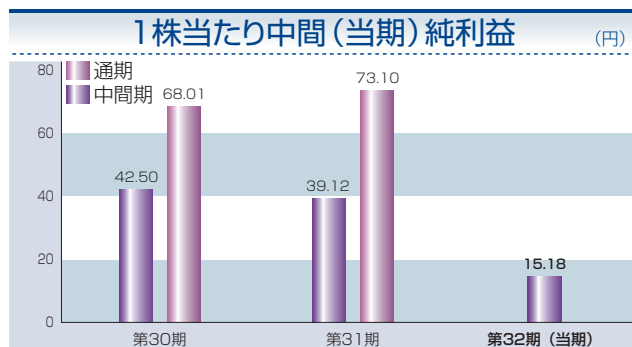
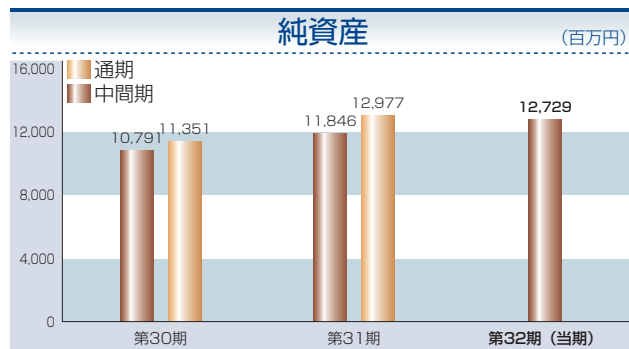
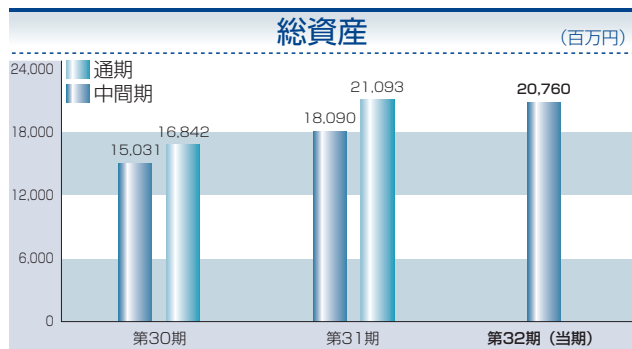
代表取締役社長

荒田尚彦

連結財務ハイライト



区分	第30期中間期 (17年12月中間期)	第30期 (18年6月期)	第31期中間期 (18年12月中間期)	第31期 (19年6月期)	第32期中間期 (19年12月中間期)
売上高 (百万円)	4,620	9,883	5,527	11,643	6,086
営業利益 (百万円)	1,114	1,982	1,108	2,101	660
経常利益 (百万円)	1,124	1,995	1,173	2,202	653
中間(当期)純利益 (百万円)	673	1,078	620	1,158	240



(注) 平成17年8月19日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。
 上記「1株当たり当期純利益」「1株当たり純資産」のグラフでは、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の数値を表記しております。

区 分	第30期中間期 (17年12月中間期)	第30期 (18年6月期)	第31期中間期 (18年12月中間期)	第31期 (19年6月期)	第32期中間期 (19年12月中間期)
総 資 産 (百万円)	15,031	16,842	18,090	21,093	20,760
純 資 産 (百万円)	10,791	11,351	11,846	12,977	12,729
自己資本比率 (%)	71.8	67.4	65.5	61.5	61.3
1株当たり中間(当期)純利益 (円)	42.50	68.01	39.12	73.10	15.18
1株当たり純資産 (円)	680.71	716.07	747.30	818.65	803.00
1株当たり配当金 (円)	0.00	17.50	0.00	17.50	0.00

(注) 平成17年8月19日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。
 上記の1株当たりの数値については、当該決算期の平均発行済株式総数に基づく数値を表記しております。

CCT学会に出展し、当社新製品をPR！

TOPICS 1

メディカル事業

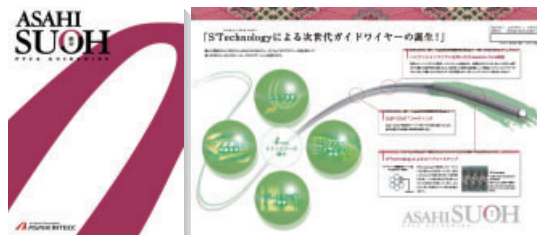
低侵襲治療に関する日本最大のCCT学会が、神戸で開催されました。この分野の最先端に行く日本人医師から発信される、新しい治療方法や高度な医療技術を取得するために参加された約5000名の参加者は、国内ばかりでなくアジア・米国・ヨーロッパと世界各国から集結され、併設された当社の展示ブースには多くの医師が訪れ、熱心に製品説明を受けられていました。また当社が企画した新製品のハンズオンセッション、当社製品の特徴が発表されたランチョンセミナー、更に当社製品の有用性を実証するフォーカスライブには、多くの医師に参加していただくことができました。



【ご紹介した新製品の一例】

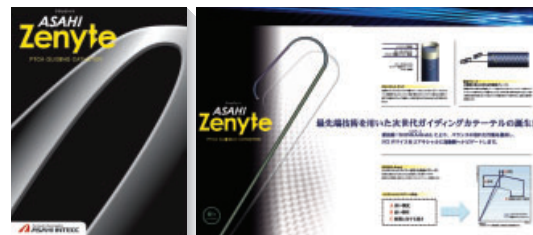
ASAHI SUOH (PTCAガイドワイヤー)

当社が有する4つのコアテクノロジーを駆使した次世代PTCAガイドワイヤーで、過去にどの会社もなし得なかった、金属のマイクロ素線を使用した撚り線技術をガイドワイヤーの先端部に用いることで、柔軟性を保ちながらもトルク性能を向上させることが可能となりました。



ASAHI Zenyte (PTCAガイディングカテーテル)

当社の金属加工テクノロジーであるハイテンションワイヤーを最大限活用したSHINKA-Braidの採用により、ガイディングカテーテルに対し求められている性能が、大幅に向上しました。高い耐キック性能を保持すると同時に、優れたトルク性能とプッシュビリティーを提供いたします。



医療部材「ACTONE」ビジネスの更なる飛躍

TOPICS2 メディカルデバイス事業

医療部材展示会MD&M Westが米国カリフォルニア州アナハイム市で開催され、当社も出展いたしました。米国3箇所で開催されるMD&M展示会の中で、カリフォルニア州の展示会が一番規模が大きく、全世界の医療機器メーカーからの注目を集めています。

メディカルデバイス事業においては、近年海外向けの医療部材の売上が増加してきており、海外展開の拡大に大きく貢献しているのが、当社が誇る「ACTONE」技術です。これまで「ACTONE」は心臓部、腹部、下肢等の血管系医療機器のデバイスに広く使用されてきましたが、現在は耳鼻咽喉科、肥満治療、脊椎治療等非血管系の新しい医療機器を支える技術として治療領域の広がりを見せています。今後もお客様のニーズ、期待に応えるべく「ACTONE」技術の更なる飛躍を目指します。



展示会風景

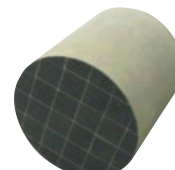
地球環境問題対策をバックアップ！

TOPICS3 インダストリアルデバイス事業

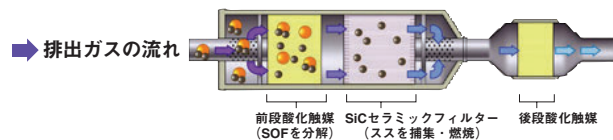
21世紀は「環境の世紀」と言われ環境負荷を軽減することが重要視されており、自動車業界で注目を浴びているもののひとつに「ディーゼルエンジン」があります。

「ディーゼルエンジン」は地球温暖化の主な原因と言われるCO₂の排出量がガソリンエンジンよりも少なく低燃費で耐久性に優れている反面、黒鉛、ススを多く発生するという問題が生じます。この黒鉛、ススを捕集するフィルターが「DPFフィルター」であり、その製造ラインのフィルター切断工程の重要な部品として当社のワイヤーロープが使用されています。

お客様のご要望である、柔軟性があること・細く強度があること・ローコストであること等の諸条件をクリアしてご採用いただきました。当社の技術が地球環境問題対策の一役を担っております。



切断面



- PM (粒子状物質)
- SOF (未燃燃料・オイル)
- スス

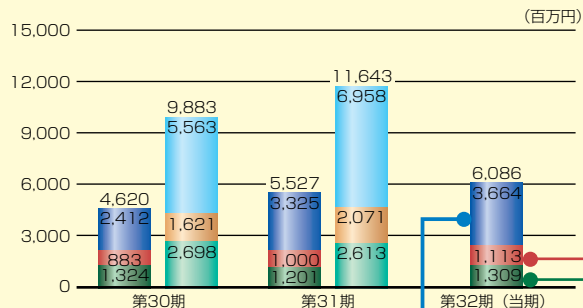
DPFは排気ガス中のススを捕らえて、ある程度温まると酸素を送り込んでススを燃やしてしまいます。

ホームページにて、最新の情報をご覧いただけます。 ▶ <http://www.asahi-intecc.co.jp/>

セグメント別営業の概況

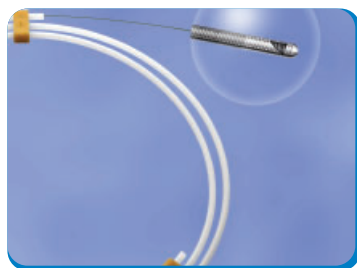
当社グループは、製品内容に応じ、
 メディカル事業、
 メディカルデバイス事業、
 インダストリアルデバイス事業の
 3事業にて構成されております。

●セグメント別売上高

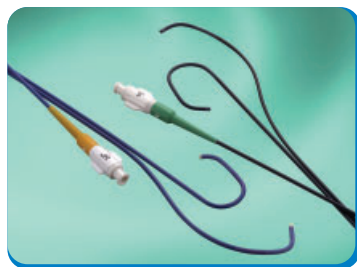


Medical

メディカル事業 ～世界市場への展開を加速化～



PTCAガイドワイヤー



PTCAガイディングカテーテル

メディカル事業では、循環器系を中心とした低侵襲治療製品について、欧米市場を中心とした世界市場への展開の加速化に取り組んでおります。この数年来、PTCA治療（循環器系における低侵襲治療（注1））は、心臓疾患患者数の増加や、再狭窄率を低減する薬剤ステントの普及、さらには他社にはない高い優位性を持ち、かつCTO（注2）治療も可能な当社のPTCAガイドワイヤーが欧米市場にて近年販売が開始されたことなどから、欧米市場を中心に症例数が増加する傾向にありました。しかし平成18年度にPTCA治療に使用する薬剤ステントの安全性の懸念が発生したことを契機とし、薬剤ステント市場が大きく縮小し、さらにはこれがPTCA市場全体に影響し、平成19年度のPTCA治療件数は増加から一転、米国を中心に10%～15%の減少に転じております。このように市場環境は厳しい状況ではあるものの、世界市場では米国大手のアボット ラボラトリーズ社を代理店として販売を展開している米国地域や、直接現地の代理店を通して販売しているアジア地域及び中近東地域などを中心に主力製品PTCAガイドワイヤーの取引が増加し、また国内市場におきましても新製品のガイディングカテーテルを販売代理店へ初期出荷したことに伴い

売上が増加したことなどから、治療用カテーテルシステムにつきましても、売上は増加いたしました。

また、検査用カテーテルシステムについては、競合品との競争激化の影響を受けたものの、国内市場を中心に販売を強化したことから、前年同期に対して売上は増加いたしました。以上の結果、売上高は36億64百万円（前年同期比10.2%増）、営業利益は8億54百万円（同25.2%減）となりました。

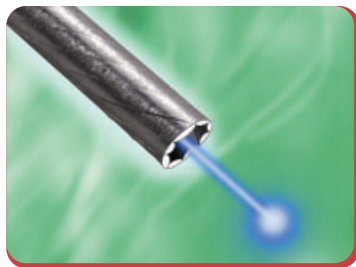
注釈説明

注1.【低侵襲治療】患者の精神的・身体的ダメージを最小限に抑えるために、開胸・開腹手術をすること無く、太腿や手首から血管を通じて行う傷口や痛みが少ない治療のことを言います。通常の外科手術と比較し、患者のダメージが軽減されるほか、入院期間が短縮されるなどの利点があり、また付随して患者の経済的負担の軽減や、政府の医療費抑制策にも貢献する治療法と言われております。

注2.【CTO】慢性完全閉塞といって長期間完全に閉塞した状態の病変のことをいいます。従来は、このような病変は外科手術（バイパス手術）の領域でしたが、当社がCTOにも使用可能なPTCAガイドワイヤーの開発に成功したことから、現在では、国内においてはPTCA治療（循環器系における低侵襲治療）が主流となっています。

Medical Device

メディカルデバイス事業 ～新領域分野への進出～



ACTONE® (アクトワン)

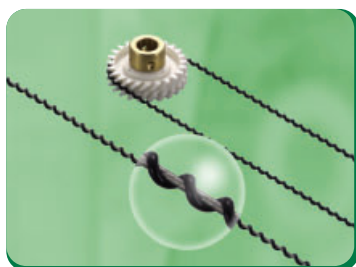
メディカルデバイス事業では、循環器以外の新領域分野への進出や業績は好調に推移しており、OEM供給品につきましては、中心静脈用をはじめとしたガイドワイヤーや脳動脈瘤の塞栓に使用される医療部材など国内市場向けの低侵襲治療製品を中心に前年同期に対して売上は増加しております。この背景には、国内市場の医療機器について、政府の医療費抑制政策や、同業者間における価格競争が激化していることによる価格の低下に伴い、大手医療機器企業が強力な販売網を活かし「販売」に注力すべく、「製造」については当社のような技術力、生産力に強みを持つ企業へのアウトソーシングに委ねる傾向にあります。また、医療用部材についても、米国市場向け

の心臓検査用医療機器部材の受注などが増加しており、前年同期に対して売上は増加いたしました。

以上の結果、売上高は11億13百万円(前年同期比11.3%増)、営業利益は1億49百万円(同45.7%減)となりました。

Industrial Device

インダストリアルデバイス事業 ～高性能・高付加価値製品へのシフト～



シンクロメッシュロープ

インダストリアルデバイス事業では、OA機器複合化などに伴う部品市場価格の下落や、国内外の競合メーカーとの価格競争激化など益々厳しい事業環境となっております。また、当社製品の原材料であるステンレス等合金鉄の価格も高値で推移しており、当事業におきましては、高付加価値製品へのシフト、販売価格の見直しに取り組んでおります。

このような厳しい市場環境であるものの、ワイヤー素材については、レジャー用品や遊技機関連製品などの取引が減少する一方、海外大手OA機器企業向けのプリンター用タングステンや国内企業向けの紙業機械用特殊線材の取引及び、自動車排気ガス浄化装置製造関連製品の取引が増加するなどし、前年同期に

対して売上は増加いたしました。

一方、端末加工品については、高性能・高付加価値を有するエアコン関連製品が顧客・市場から高評価をいただき、取引が増加したものの、一般的にOA機器関連製品の取引が減少したことなどにより、前年同期に対して売上は減少いたしました。

以上の結果、売上高は13億9百万円(前年同期比8.9%増)、営業利益は2億25百万円(同5.3%増)となりました。

財務諸表（連結）

中間連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	第31期中間期 (平成18年12月31日現在)	第32期中間期 (平成19年12月31日現在)
[資産の部]		
流動資産	9,221,859	10,229,287
現金及び預金	3,524,938	3,028,066
受取手形及び売掛金	2,577,721	2,764,885
たな卸資産	2,378,372	3,694,116
繰延税金資産	153,734	140,258
その他	592,337	611,487
貸倒引当金	△5,245	△9,528
固定資産	8,868,955	10,531,116
有形固定資産	6,934,105	7,616,158
建物及び構築物	3,603,853	3,890,381
機械装置及び運搬具	1,599,447	1,770,811
土地	1,303,974	1,346,248
建設仮勘定	97,226	208,433
その他	329,603	400,282
無形固定資産	117,954	131,621
投資その他の資産	1,816,895	2,783,336
投資有価証券	652,999	1,566,892
繰延税金資産	1,070	1,190
保険積立金	696,805	755,999
その他	490,334	477,920
貸倒引当金	△24,315	△18,665
資産合計	18,090,814	20,760,404

(単位：千円)

科 目	第31期中間期 (平成18年12月31日現在)	第32期中間期 (平成19年12月31日現在)
[負債の部]		
流動負債	3,266,038	3,946,789
支払手形及び買掛金	666,420	775,418
短期借入金	1,421,315	2,083,400
未払金	242,592	174,719
未払法人税等	341,496	210,462
賞与引当金	83,910	80,634
その他	510,302	622,155
固定負債	2,978,150	4,084,020
長期借入金	2,405,090	3,305,670
退職給付引当金	178,009	381,571
役員退職慰労引当金	378,966	378,966
その他	16,085	17,812
負債合計	6,244,189	8,030,809
[純資産の部]		
株主資本	11,691,106	12,193,053
資本金	4,167,950	4,167,950
資本剰余金	4,060,960	4,060,960
利益剰余金	3,462,353	3,964,299
自己株式	△156	△156
評価・換算差額等	155,518	536,541
その他有価証券評価差額金	30,825	△18,740
為替換算調整勘定	124,692	555,281
純資産合計	11,846,625	12,729,594
負債純資産合計	18,090,814	20,760,404

中間連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	第31期中間期	第32期中間期
	(平成18年7月1日から 平成18年12月31日まで)	(平成19年7月1日から 平成19年12月31日まで)
売上高	5,527,400	6,086,941
売上原価	2,223,788	3,004,349
売上総利益	3,303,612	3,082,592
販売費及び一般管理費	2,195,166	2,422,148
営業利益	1,108,445	660,444
営業外収益	86,239	47,810
営業外費用	21,369	54,740
経常利益	1,173,314	653,515
特別利益	226	144
特別損失	52,997	170,909
税金等調整前中間純利益	1,120,544	482,749
法人税、住民税及び事業税	432,123	279,924
法人税等調整額	68,263	△37,812
中間純利益	620,157	240,638

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	第31期中間期	第32期中間期
	(平成18年7月1日から 平成18年12月31日まで)	(平成19年7月1日から 平成19年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△106,989	593,719
投資活動によるキャッシュ・フロー	△717,568	△494,466
財務活動によるキャッシュ・フロー	659,609	△140,263
現金及び現金同等物に係る換算差額	13,211	△58,019
現金及び現金同等物の減少額	△151,737	△99,029
現金及び現金同等物の期首残高	3,253,022	2,819,531
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,101,284	2,720,501

中間連結株主資本等変動計算書 (平成19年7月1日から平成19年12月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本					評価・換算 差額等合計	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成19年6月30日残高	4,167,950	4,060,960	4,001,080	△156	12,229,834	747,906	12,977,741
中間連結会計期間中の変動額							
剰余金の配当			△277,419		△277,419		△277,419
中間純利益			240,638		240,638		240,638
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△211,365	△211,365
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	△36,781	—	△36,781	△211,365	△248,146
平成19年12月31日残高	4,167,950	4,060,960	3,964,299	△156	12,193,053	536,541	12,729,594

財務諸表（単体）・株式の状況

中間貸借対照表

(単位：千円)

科 目	第31期中間期 (平成18年12月31日現在)	第32期中間期 (平成19年12月31日現在)
[資産の部]		
流動資産	7,511,078	7,433,183
現金及び預金	2,528,641	1,823,791
受取手形	358,673	416,448
売掛金	2,006,830	2,131,364
たな卸資産	1,460,542	1,945,586
繰延税金資産	85,211	57,748
未収入金	890,241	768,258
その他	181,095	290,153
貸倒引当金	△157	△168
固定資産	9,526,391	11,228,019
有形固定資産	4,005,378	4,195,477
建物	2,048,468	2,129,371
構築物	115,799	98,127
機械及び装置	407,016	535,999
車両及び運搬具	212	180
工具器具及び備品	221,565	249,977
土地	1,157,743	1,175,335
建設仮勘定	54,572	6,484
無形固定資産	112,200	122,989
投資その他の資産	5,408,813	6,909,551
投資有価証券	—	1,566,892
関係会社株式	1,384,041	1,384,041
関係会社出資金	547,850	1,016,930
関係会社長期貸付金	1,724,000	1,676,000
破産更生債権等	—	315
繰延税金資産	233,889	341,362
保険積立金	696,805	755,999
その他	846,541	186,757
貸倒引当金	△24,315	△18,746
資産合計	17,037,469	18,661,202

(単位：千円)

科 目	第31期中間期 (平成18年12月31日現在)	第32期中間期 (平成19年12月31日現在)
[負債の部]		
流動負債	3,458,902	3,742,336
支払手形	523,438	565,139
買掛金	763,082	869,849
短期借入金	260,000	260,000
一年以内返済予定長期借入金	1,098,515	1,346,300
未払法人税等	212,771	92,125
賞与引当金	80,276	76,181
その他	520,819	532,740
固定負債	2,958,109	4,062,546
長期借入金	2,405,090	3,305,670
退職給付引当金	174,053	375,410
役員退職慰労引当金	378,966	378,966
その他	—	2,499
負債合計	6,417,012	7,804,883
[純資産の部]		
株主資本	10,589,632	10,875,059
資本金	4,167,950	4,167,950
資本剰余金	4,060,960	4,060,960
資本準備金	4,060,960	4,060,960
利益剰余金	2,360,878	2,646,306
利益準備金	39,841	39,841
その他利益剰余金	2,321,037	2,606,464
別途積立金	75,000	75,000
繰越利益剰余金	2,246,037	2,531,464
自己株式	△156	△156
評価・換算差額等	30,825	△18,740
その他有価証券評価差額金	30,825	△18,740
純資産合計	10,620,457	10,856,319
負債純資産合計	17,037,469	18,661,202

中間損益計算書

(単位：千円)

科 目	第31期中間期 (平成18年7月1日から 平成18年12月31日まで)	第32期中間期 (平成19年7月1日から 平成19年12月31日まで)
	売上高	5,468,487
売上原価	2,869,908	3,392,636
売上総利益	2,598,579	2,352,350
販売費及び一般管理費	1,814,775	1,949,579
営業利益	783,804	402,771
営業外収益	131,374	53,046
営業外費用	22,734	151,958
経常利益	892,444	303,859
特別利益	879	18
特別損失	52,997	170,899
税引前中間純利益	840,327	132,979
法人税、住民税及び事業税	252,972	113,793
法人税等調整額	36,566	△69,166
中間純利益	550,789	88,352

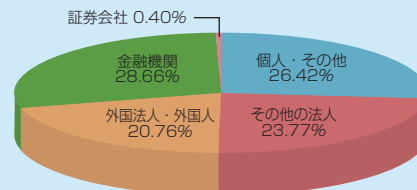
株式の状況 (平成19年12月31日現在)

発行可能株式総数	50,000,000 株
発行済株式の総数	15,852,600 株
株主数	2,328 名

●大株主

株 主 名	持株数 (株)	議決権比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,691,900	10.67
アイシーエスピー有限公司	1,500,000	9.46
宮田 昌彦	1,483,500	9.35
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,120,100	7.06
宮田 憲次	908,400	5.73
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	717,650	4.52
セント・ジュード・メディカル株式会社	708,000	4.46
株式会社ハイレックスコーポレーション	600,000	3.78
ザチースマンハッタンバンクエヌアイロムズエイルコム(バスアカウント)	418,600	2.64
資金管理サービス信託銀行株式会社 (年金信託口)	418,100	2.63

●所有者別株式分布状況 (株式数15,852,600株、株主数2,328名)



中間株主資本等変動計算書 (平成19年7月1日から平成19年12月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本					評価・換算 差 額 等	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成19年6月30日残高	4,167,950	4,060,960	2,835,373	△156	11,064,126	117,679	11,181,805
中間会計期間中の変動額							
剰余金の配当			△277,419		△277,419		△277,419
中間純利益			88,352		88,352		88,352
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額 (純額)						△136,419	△136,419
中間会計期間中の変動額合計	-	-	△189,067	-	△189,067	△136,419	△325,486
平成19年12月31日残高	4,167,950	4,060,960	2,646,306	△156	10,875,059	△18,740	10,856,319

会社の概要・株主メモ

▶ 会社の概要

商号	朝日インテック株式会社 ASAHI INTECC CO.,LTD.
設立	昭和51年7月8日
資本金	41億6,795万円
従業員数	●単体 331名（平成19年12月31日現在） ●連結2,136名（平成19年12月31日現在）
本社	〒463-0024 名古屋市守山区脇田町1703番地 TEL 052-768-1211（代）
事業内容	①心臓循環器系疾患の治療および診断分野においての低侵襲治療製品（治療用カテーテルシステム、検査用カテーテルシステム）の開発・製造・販売 ②ワイヤー素材、アセンブリ品等の産業用ステンレスワイヤーロープの開発・製造・販売 ③消化器分野、循環器分野、透析分野、放射線分野における低侵襲治療製品・部材の開発・製造およびOEM供給

役員（平成19年12月31日現在）

代表取締役社長	宮田尚彦
代表取締役副社長	宮田昌彦
専務取締役	竹内謙弉
常務取締役	川西俊昭
常務取締役	福井芳彦
取締役	湯川一平
取締役	宮田憲次
常勤監査役	前田善雄
常勤監査役	渡辺行祥
監査役	佐藤昌巳
監査役	百瀬登

（注）監査役佐藤昌巳および百瀬登は、社外監査役であります。

事務所

●国内事業所

東京営業所	東京都品川区
名古屋営業所	名古屋市守山区
大阪営業所	大阪府和泉市
メディカル事業部	愛知県瀬戸市
大阪R&Dセンター	大阪府和泉市
大阪物流センター	大阪府高石市

●海外事業所

香港支店	中国 香港
EU支店	オランダ アムステルダム
シンガポール駐在所	シンガポール ビシャン地区
東莞石龍朝日精密鋼線廠	中国 広東省東莞市

●関連会社

ASAHI INTECC THAILAND CO.,LTD.	タイランド パトゥムタニ県
ASAHI INTECC USA,INC.	米国 カリフォルニア州
ASAHI INTECC HANOI CO.,LTD.	ベトナム ハノイ市
フィルメック株式会社	名古屋市守山区
コンパスマッドインテグレーション株式会社	東京都新宿区



本社（名古屋市守山区）



ASAHI INTECC HANOI CO.,LTD.



ASAHI INTECC THAILAND CO.,LTD.



メディカル工場（左）デバイス工場（右）

▶株主メモ

証券コード	7747
決算期	6月30日
定時株主総会	毎年9月
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当金 6月30日 中間配当金 12月31日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
 野村證券株式会社 全国本支店

お問い合わせ先
（郵便物送付先・電話照会先）
 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 TEL 0120-232-711（フリーダイヤル）

公告方法
 当社ホームページ
 (<http://www.asahi-intecc.co.jp/>)
 に掲載します。

ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株券の種類 100株券、1,000株券

1単元の株式数 100株

上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部
 名古屋証券取引所市場第二部
 ジャスダック証券取引所

IR情報は、ホームページ上でもご覧になれます。

ニュースリリース、財務情報、株主情報など、ホームページ上で最新の情報をご提供しております。

▶ <http://www.asahi-intecc.co.jp/>

株主様向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7747



いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、
いいかぶと4文字入れて検索してください。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使い
の方は、右のQRコードからもアクセスできます。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本中間報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

その他ご意見がございましたら、誠にお手数ですが当社ホームページ「お問い合わせ」にご記入ください。

<http://www.asahi-intecc.co.jp/>



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」

TEL:03-5777-3900 MAIL:info@e-kabunushi.com

 朝日インテック株式会社

〒463-0024 名古屋市守山区脇田町1703番地
TEL 052-768-1211 (代)

<http://www.asahi-intecc.co.jp/>



この印刷物は環境に配慮した
「大豆油インキ」を使用しています。